

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100499		
法人名	コミュニティホーム長者の森		
事業所名	グループホーム長者の森(2ユニット共通)		
所在地	焼津市三ヶ名558-4		
自己評価作成日	令和7年 12月 5 日	評価結果市町村受理日	令和8年 1月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和7年 12月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あなたの人生をHappyに！」を理念に掲げ、入居者様・ご家族様・働くスタッフの三位一体の幸せを追求する当事業所は、入居者様の想いを最期まで叶える「ハピネスプラン」を実践し、お買い物や外気浴で日常のささやかな喜びを重ねることに加え、施設内にある保育交流「こちゃんtime」や盛大な合同誕生日会を通じて多世代・地域との繋がりを深める活気ある生活を提供することで、終の住処として安心し、心穏やかな最終章を迎えられるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

保育園とデイサービス、ショートステイが併設している施設は日常的に子どもと触れ合える環境にある。中庭を通じて、保育園の様子を窓から眺めることができ、常に子ども達の成長を感じることができる。理念にある「あなた」は入居者、家族、職員関係する方々全てを指す。入居者に役割を提供することに焦点を当て、入居者一人一人がここにいる幸せなんだと感じられる工夫をしている。9割以上の方が看取り介護で退所する為、入居前から大切にしたいことを生活に取り入れ、入居者にとって何が幸せか常に理念に立ち返っている。入居者が望む生活を実現でき、最期まで寄り添えることに介護の魅力を感じる職場だと職員から聞き取ることができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「あなたの人生をHappyに！」 会議の場でも理念を基に考え、常に入居者様の幸せは何かを考えている。経営方針発表会にて理念を共有している。職員、全員が理念を答えられその意味を把握している。	しあわせエピソードを言語化し経営方針発表や月1回の会議で理念を確認し全職員が理解している。その為、入居者に寄り添い、丁寧にケアを実践する事や入居者が望むケアを提供することに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設として年に2回イベントを開催している。地域の方が足を運びやすい環境にある。居場所事業として、「認知症講座」を定期的に開催している。また、小学生職場体験やアウトオブキザニアへ参加を行った。運営推進会議には地域の方が参加している。	年2回のイベントでは、看取りをして退所された家族の参加もある。また地域の方や入居者家族が、津波災害の避難場所として施設を活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	震災以降津波対策で屋上を一時避難場所として随時開放している。屋上には外階段でいつでも登れるようになっている。運営推進会議を通して地域の方にお便りを渡し地域へ発信をしている。「認知症市民講座」は、毎回多くの地域住民が参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、100回以上を開催して。100回は、入居者様全員と多くの家族が参加した。会議は、2ヶ月に一度開催し、報告等を行いそこで意見等を共有している。入居者様や地域の方も参加して下さっている。	運営推進会議に入居者も参加し、意見を述べている。また自治会、民生委員、近隣住民、家族、市職員、包括職員が参加している。会議で課題がみられた時には職員全員に周知し改善案を検討している。	今後は現場スタッフの運営推進会議への参加を検討しており、運営の視点を持った職員の人材育成が進められることに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に運営推進会議をそのお便りや議事録を届ける事で市担当者と密に連絡を取って。地域包括ケア推進課・介護保険課の担当の方に訪問や電話連絡で助言をいただいている。認定調査時に、市職員が訪問しており対応をしている。事故・苦情はメールにて報告している。	市へ頻繁に訪ねるようにし、市担当者から介護保険の申請や利用者の届け出、対応方法などに関して指導や助言を求めるようにコミュニケーションを図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討・虐待防止委員会を設置し、社長・副社長・管理者が委員となって委員会を実施している。より良いケアの為にチェックリストを毎月全員実施している。社内研修を通して認識を統一している。気になる点は、個別面談を実施。外部講師を招いて研修を実施した。	法人のトップが率先して身体拘束廃止の取り組みに参加している。そうする事で職員全員が不適切なケアをしてはいけないという意識が根付き、お互いが指摘をし合える環境にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やスタッフは内部・外部研修に参加し学ぶ機会を得て、ミーティング時にシェアしその必要性を教え共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前からご家族様やケアマネジャー等から密に連絡を取り契約に繋げる。また、管理者が契約時に時間をかけ施設の概要や内容を伝え十分に納得された上で契約を交わしている。改定時にもその入居者様やご家族の置かれている状況を配慮し説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の様子や家族の要望は、電話、文章、面会時にてお話をする機会を設けている。家族の声は、スタッフへ必ず共有し記録にも残し、日々のケアに繋げている。必要時には、市へ報告を行っている。	電話やSNSの活用、面会等を通じて診察やイベントの様子を家族に報告している。また入居者や家族の意見を真摯に捉え、その背景要因を職員と共に考え次の処遇に活かすように職員全員で検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーション、リーダー勉強会、年2回人事考課シートを使用した個人面談がありスタッフの意見や提案を聞く機会を設けたり、提案などが反映している。全スタッフ対象のアンケートを実施し運営に反映している。	事前アンケートを実施し、部署会議で検討を行っている。会社全体として今年度3ヶ年目標に対し、職員全員にアンケートを実施し運営に反映している。アンケートの回答件数がここ5年間で増大し、意見が出しやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末にスタッフ一人ひとりが個人面談をし今年度特に力を入れて業務で実践したことを話してもらう。それ以外でもスタッフの悩みや体調が心配されるスタッフは、都度話をする機会を設けて問題解決に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外研修を行い、新しい知識、技術の再確認を行う。現場でも指導スタッフが新人スタッフに一年かけて細かく指導している。定期的な面談も実施している。介護技術試験を開催した。現在は、伝達力自主勉強会を開催中です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設見学や他施設の視察等を受け入れている。他法人との合同研修は、昨年に続き今年もスタッフ参加。また、他施設のイベントへ入居者様と職員が一緒になり参加する機会を設け、自施設に良い所を取り入れサービスの質を向上するようにしている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	待機期間にご家族様と綿密なコンタクトをとっている。アセスメントを行い、ご本人様が話した内容やご家族様からの情報を照らし合わせながら信頼関係が築けるように時間をとり関係性を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、契約前からの絆づくりを行い、どんなお父様、お母様だったのか色々なエピソードを聞いている。契約時には、時間をかけてご本人様とご家族様の要望等を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の想いを実現する為には何をすれば良いのかを考え安心して生活出来る様努めている。言葉や様子から必要としている支援を汲み取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと会話をしながら家事等出来る事を共にし、役割を持ち過ごせるようサポートを行う。また一緒に行う共同生活の中で信頼関係を深めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会や外出はいつでも対応している。入居者様とご家族様との関係を繋げていく役目であることを私達は意識している。ご本人様の話を聞きご本人様もご家族様も幸せになれるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や親族等、多くの方が面会に来所し、外出や外泊をしたい希望の方には、いつでも外出できるように対応している。面会があった際には、ご家族様にご報告をしている。年賀状の宛名を書いて出したり、知人から手紙が届くこともある。	入居者が親しい知人に年賀状を出す支援をしている。普段文字を書かない方でも年賀状なら書いてくれる為、入居者の想いを大切にしている。また外出や外泊の希望には快く応じ、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性に合わせて食事の席配置を行っている。入居者様同士の関係や要望を考慮し互いに支え合えるような支援についてスタッフ間で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去された後でもご家族様が気軽に相談や連絡が届く事がある。その都度丁寧に対応させて頂きます。施設のイベント等にも足を運ばれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月行う会議には、多職種参加にて話し合いを実施している。パーソン・センタード・ケアを意識し話し合いを重ねている。日々の中でも会話や表情、仕草から思いを汲み取り記録を通して職員同士共有をしている。	ケアマネジャーや看護職員、介護職員が参加する会議を開催し、個別ケアの支援ができる取り組みをしている。入居者個人の想いを汲み取るために気づいたことは職員間で共有してケア方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴はご家族様や元ケアマネジャーより得られる情報が多いが、ご本人様しか知らない事も多いため昔話などをして頂きその中から把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合わせた生活を安心して頂けるように否定せずに寄り添い優しい声掛けや個人に合わせたプランを組み立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時や状態変化時のプラン変更時には、スタッフアセスメントを行い、すごいと感じた事、嬉しかった事のエピソードや身体的・言葉だけ・気持ちの部分で維持が出来ている事等情報収集を行っている。多くの方が携わったケアプランになっている。	介護職員が専用のアセスメントシートを活用してより多くの情報を集約し、多職種とも連携しながらケアプランを作成している。また医師への報告も随時行いケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、ご本人様が話した事やケアの提案や気づき等は、記録に入力している。会議録の記録も全て記録に残している。ケアプラン更新時に振り返りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態に合わせて、ご本人やご家族のニーズを抽出しケアプランに反映している。状態が変わる時には、ケアプランを更新している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの生活に合った地域資源を活かし、安全で豊かな暮らしを支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望された方は、協力提携医を主治医にしており、毎月の訪問診療、電話での相談を随時行っている。協力提携医は、24時間365日対応を行っている。眼科・泌尿器科・整形外科等は、入居前からのかかりつけ医に家族が受診・対応をしている。	2週間に1度、訪問診療があるが急な相談も随時可能である。夜間や土日に対応する訪問診療医と協力提携医との情報共有がされている。また専門医への通院送迎も家族の希望があれば事業所で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の勤務日には、医療面での管理・相談に対応している。またその他の日は、急変時・夜間の24時間オンコールにも対応している為ご家族様も安心しておられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族様や病院から様子を伺い状態の把握に努めている。退院後も医師の指示のもと施設内の生活が継続できるよう連携を密にとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針・重度化対応の指針は、定期的に改訂している。入居契約時に指針を説明しお渡ししている。状態が悪化した場合は早期に本人・ご家族様と今後のケアや方針について話し合いをしている。終末期を迎えた入居者様のご家族様には医師が説明し、看取り介護の同意書に承諾を得ている。協力連携医は24時間365日対応で、看護師は24時間オンコール対応を行っている。	看取りに関する対応の指針を入居時に説明し同意を得ている。また終末期となった際に再度方針の確認を行い、最期まで本人の思いに寄り添える支援をしている。また職員へは看取りケアの研修を定期的に行い、家族への支援にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に冷静に対応できるように社内研修等で、学びの機会を得ている。急変時のマニュアルがあり、日々から看護師より指導もあり、スタッフの意識づけにも繋がっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をしている。また夜間を想定した訓練も行っている。防災・BCP委員会を中心に非常食や水等備蓄を定期的に管理している。BCP社内研修を実施、運営推進会議を通して協力体制を築いている。カムチャッカ半島地震時に近隣の方が自主的に屋上へ地域の方が避難しました。地域の避難訓練の際に屋上を開放し、避難訓練後は組長に施設内を案内し災害時には協力を仰いでいる。	法人内の各事業所から委員を選出し、災害対策に向けた活動をしている。緊急時の職員間の連絡体制も構築されている。事業所は地域住民の避難施設となっており、カムチャッカ半島地震における津波警報時は20名程の避難があった。	災害時の近隣住民との協力関係は出来ているが、今後施設の防災訓練に地域住民が参加され、より実践的な防災対策の体制作りが構築できる事を期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに丁寧な声かけをしている居室の扉は閉める等の配慮は常に行っている。また、入居者を挟み業務等の話をしないようしている。個人情報等の申し送り等は、別室にて行っている。	理念に基づいて「選択肢は入居者にある」という入居者の意思決定支援を行っている。個々の希望に合わせた時間の流れや、日課の提供を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に応じて二者択一にしていたり、意思決定が難しい方には表情(瞬き)から汲み取るなど個々のペースに合わせてケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	暮らしには、基本的に決まりはなく、ご本人様の生活に合わせた生活をする事ができている。体操やレクリエーション、入浴、電話等は、ご本人に先に希望を確認する声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、ご本人様に選んで頂き、好きな服を着ている。また、新たに購入する時は、職員と外食した時に、ご本人様が服を選んで購入している。定期的な訪問美容師によるヘアカットも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、厨房業者に委託して、暖かいご飯を召し上がっている。ご飯は、ユニット毎毎食炊いており。味噌汁は、週に1度入居者様と一緒に作っている。入居者様が半紙に献立書きをしている。食器等の片付けを入居者様が役割として職員と共にしている。	収穫した野菜や果物をおやつ作りで使用し、季節を感じられる支援をしている。ご飯は各自で茶碗に盛り本人が量を定める事が可能である。状態に合わせた食事形態で提供し、安心して食事を楽しめる様に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養バランスを考えて献立が立てられている。個々に合わせた食事形態にし、一日の食事量や水分量を把握している。嗜好品をご家族様にお持ち頂き好きな時に召し上がって頂くこともあります。水分はADLに応じてトロミ付け等で対応し一日の水分量をスタッフ全員で意識している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内の状態に合わせた口腔ケアを行う。先にご自身で毎回歯磨き等をしてもらい。その後職員による仕上げ磨き等をしている。義歯は毎晩就寝時に洗浄をしている。自歯がない方は、コンクールやクリニカ等の口腔洗浄液を使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレにて排泄ができるようにしている。24時間シートと記録を併せて個人の排泄パターンを把握している。	ほとんどの入居者がトイレでの排泄ができるよう支援している。夜間は睡眠状態を把握できる睡眠見守り介護システムを活用し、睡眠の妨げにならない適切なトイレ誘導や介助の支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて排便カウントを行う。排便間隔や形状の観察などから、麦ご飯、オリーブオイル、ヤクルト、ヨーグルト等の提供をし、できるだけ薬に頼らず自然な排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望のタイミングや希望の入浴回数で対応している。ご本人様の保湿剤やご本人持ちのシャンプー等を使用している。乾燥肌用のボディソープを取り入れている。好きなシャンプーを選ぶ仕組みも取り入れている。希望される方は、同性介助を行う	本人の希望する時間帯や回数の入浴を提供している。状態が低下した場合でも希望があれば入浴できるように配慮している。シャンプーやボディソープも個々で好みや皮膚状態に合わせて提供するよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの睡眠状況を把握し日中でも自由に休まれる様にしている。眠れない方は、スタッフと話をしたり音楽を聴いて気持ちよく眠れるようサポートしている。消灯時間は特に決まっていない。パジャマへの着替えもしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容が把握できるような薬の情報ファイルや拒薬があった場合の対応について一覧にして全スタッフがわかるようにしている。内服介助の時に、本人・スタッフともに確認できるようなれを用意し、毎回きちんと確認するような体制にしている。軟便が続いた時には、中止していい薬を全スタッフに伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中でその方が出来る家事等の役割がある。好きな事、興味があることをして楽しく過ごして頂ける様にしている。献立書き、オカリナ演奏、散歩、習字、畑仕事、音楽鑑賞など入居者様、スタッフ共に心から安らぎ、楽しんでいる。畑の前に椅子を設置しくつろぎの場にもなっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿って外出している。ご本人の生活歴やご家族様からの話し、TVからの情報を得て外出をしている。ご家族様との外出行っている。ハピネスプラン(想いをカタチにする取り組み)を行っている	日頃から近隣の飲食店や量販店への外出や散歩等に出かけている。週4回ほど家族と外出する方もおり、外出や外泊の希望時にも積極的に支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理簿で出納記録し、上限額5千円を金庫でお預かりし、使用した記録をご家族様へお渡ししている。自己管理の方も居る。外出時や買い物の際に、できるだけご自身で支払いができるようサポートしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を家族あてに送っている。近くのポストに手紙を投函している。 少し前まで携帯電話を持参されていた方は、自由に電話をしていた。ご家族様との電話を希望された時には、電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下にソファがあり、廊下には、ベンチ椅子があり寛げるスペースがある。季節の花を職員が持って来て、定期的に入居者様が活けている。電気は、昼白色と電球色の2つを取り入れている。	保育園が1Fにあり2Fのグループホームの窓からは、子どもの声や様子を見ることができる。保育交流が日常的に行えていることで、子どもの泣き声や話し声が聞かれ子どもと共生できる生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は自室に戻られたり、共用スペースでは、自由に過ごして頂いている。ソファに座ったり、気の合う方との席の配置等を工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活をそのままに、自宅で使用していた家具、寝具、位牌や小さな仏壇、思い出の品を置いている。ご自身が居心地良く過ごせる居室の設えにしている。個々のドアにのれんを掛けている方もいる。ご本人の作品も飾ってある。	希望がある入居者は、本人の好みで居室の入口は暖簾を使用している。居室内も自宅から持参された家具や趣味の物、写真等が飾られ、過ごしやすく安心できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態を把握し、その日の動きからご本人様のペースで、できていない事を手助けしている。また、入居者様の様子を少し離れた場所からの見守りや、必要時に手助けにできる環境になるよう工夫している。		